

調査資料

ロシア語受講者の意識と意見

はじめに

本学ではロシア語は第2外国語の1つとして、1年次、2年次の学生に対し、それぞれ週2回の授業が行なわれている。4学部にわたってあるロシア語のクラス数は総計22、担当教員は専任4、非常勤5、1クラスの平均人員は60~80だが、再履習者をいれると100名を越えるクラスもある。したがってロシア語の授業を担当する教員は(他の語学担当の教員も同様であろうが)、授業を行なうにあたり、所期の成果をあげるべく、みな一様に苦勞し、教授法に工夫をこらし、学生の語学力養成に努力している。

今回はからずも、何らの事前の相談もなく、ロシア語担当の4名の専任教員が、ロシア語授業に万全を期する意向から、近々この半年の間に、個々に担当クラスの学生に対しアンケート調査をしていたことが分った。全く偶然にも同時期に似たような調査をしたわけである。ならばその結果を個々人のものとせず、共通の分母に立つわれわれロシア語教員が相互に情報を交換し、こんごのロシア語授業に役立てたいと意見が一致した。ここにその資料を整理、分析し、敢えて公表することにした。これによりロシア語担当の教員、またロシア語を学ぶ学生諸君の参考に供したいためである。他の外国語に関る方々にもなんらかの参考になれば幸いとも秘かに思っている。

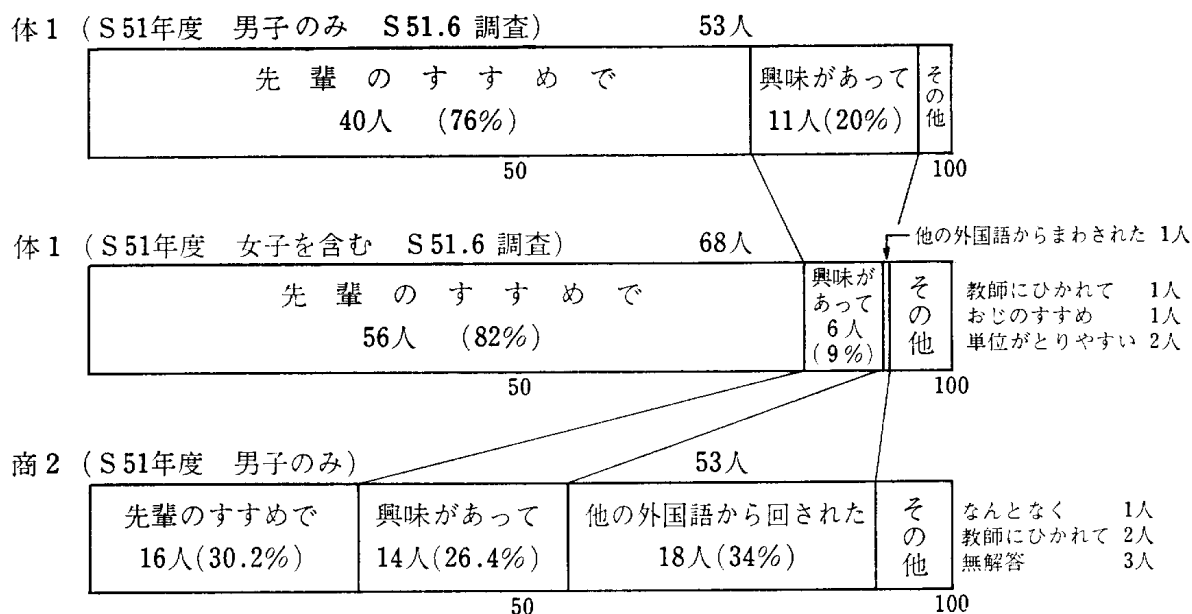
ただしこの資料は上述したように、前以って周到に準備をして行なったアンケート調査ではないことを予めご了解頂きたい。調査の項目も、設問の仕方も無統制であり、対象の学生の学部、学年も一定の企画に基づいていない。しかしそこにはロシア語の授業、教授、学習という共通のテーマが流れている。

今回の資料は甚だ不完全であり、いくたの不備を免れない。だが、これを皮切りにしてわれわれはこんご系統的にロシア語教授法の問題を追求していく意向である。既に今春われわれ4名の一年がかりの協同作業になるロシア語入門教科書が発刊されている。より効果的で学び易い教科書を意図して編さんしたわれわれとしては、ロシア語授業のより効果的な方法の探究に一層熱心にならざるをえない。

アンケートの調査方法、資料の分析のしかた等々についてきたんのないご批判を戴ければ幸いである。

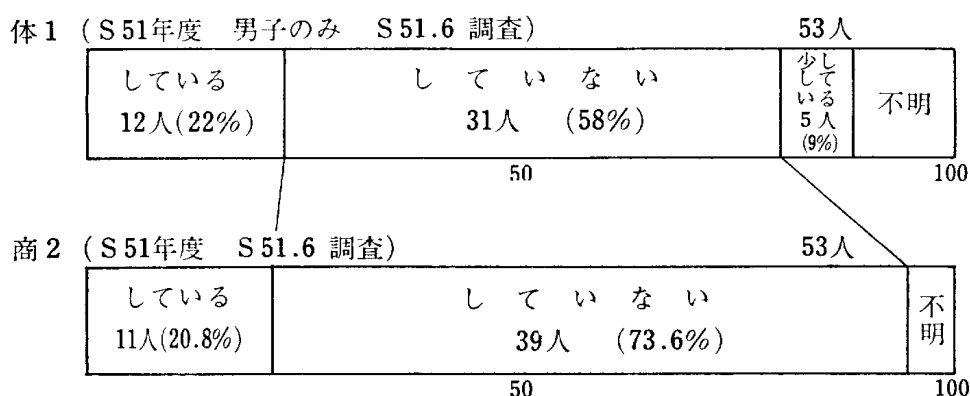
資料1

1) ロシア語を選択した理由



第外国語としてロシア語を学んでいる理由を調査すると、表の通り、体育学部では、先輩のすすめによるところが大半を占めている。商学部では、動機は3分されている。八事と豊田の学生の生活状況の反映であろうか？概して、寮或いはクラブに関係している学生は先輩の助言で第2語学を選択する率が高い。我々ロシア語教師としては、興味をもってロシア語を選択する学生が多いことを望むのであるが、現状は必ずしもそうっていない。初めて学ぶ第2外国語であるから、選択は困難なことも理解できるが、やや残念な感をぬぐえない。

2) ロシア語を選択して後悔しているか？



動機はともかくとして、実際にロシア語を学んでいる過程で、「いやでいやでたまらない」、「後悔している」という学生は少ないことが分り、現場で教えるものとしては元気づけられる思いである。とはいえ、後悔はしてなくても、やる気があるかとの問題になると別である。表にはしなかったが75年度商2のクラスで(2年間のロシア

語学習を終えようとしている段階で）「チャンスがあれば少しでも学習を続けたいか？」とのアンケートをとったところ約半数のものは「続けたい」、「やってもよい」との意志を示している。反面「仕方なく勉強している」との学生が半数いるということは、反省せねばならない現実である。

3) 宿題はあった方がよいか？

（毎週 1 or 2 回宿題を提出，添削して返却するものとして）

体 1（S 51 年度 男子のみ S 51.6 調査）

53 人

あった方がよい 14 人(26%)	少しならよい 13 人(25%)	ない方がよい 23 人(43%)	
----------------------	---------------------	---------------------	--

体 1（S 51 年度 女子を含む S 51.6 調査）

68 人

あった方がよい 32 人(47%)	少しならよい 25 人(37%)	ない方がよい 8 人(12%)	
----------------------	---------------------	--------------------	--

商 2（S 51 年度 S 51.6 調査）

53 人

あった方がよい 26 人(49%)	ない方がよい 21 人(39.6%)	どちらでもよい 5 人(9.5%)	
----------------------	-----------------------	----------------------	--

体 1（S 50 年度 男子のみ S 51.1 調査）

50 人

あった方がよい 28 人(56%)	少しならよい 11 人(22%)	ない方がよい 5 人(10%)	その他
----------------------	---------------------	--------------------	-----

体 1（S 50 年度 女子を含む S 51.1 調査）

50 人

あった方がよい 23 人(46%)	少しならよい 19 人(38%)	ない方がよい	その他
----------------------	---------------------	--------	-----

大きな教室で多数の学生を相手にした授業を行っている現状では、教え、理解させていく上で多くの困難に出会うのであるが、理解を助ける手段として実験的に毎週 1 回ほど宿題を出して、復習を兼ねさせる方法をとってきたところ、一般的には「少しならよい」を含めて「あった方がよい」との解答が意外に多いのである。その理由としては、一部のものが表記したのものによると、「宿題がないと家に帰ってもテキストすら開かない」こと、「イヤだが、やっているうちに少しは分るようになる」というのが多いのである。中には、「初めて学ぶのだから出すべきだ」との肯定論もみられる。

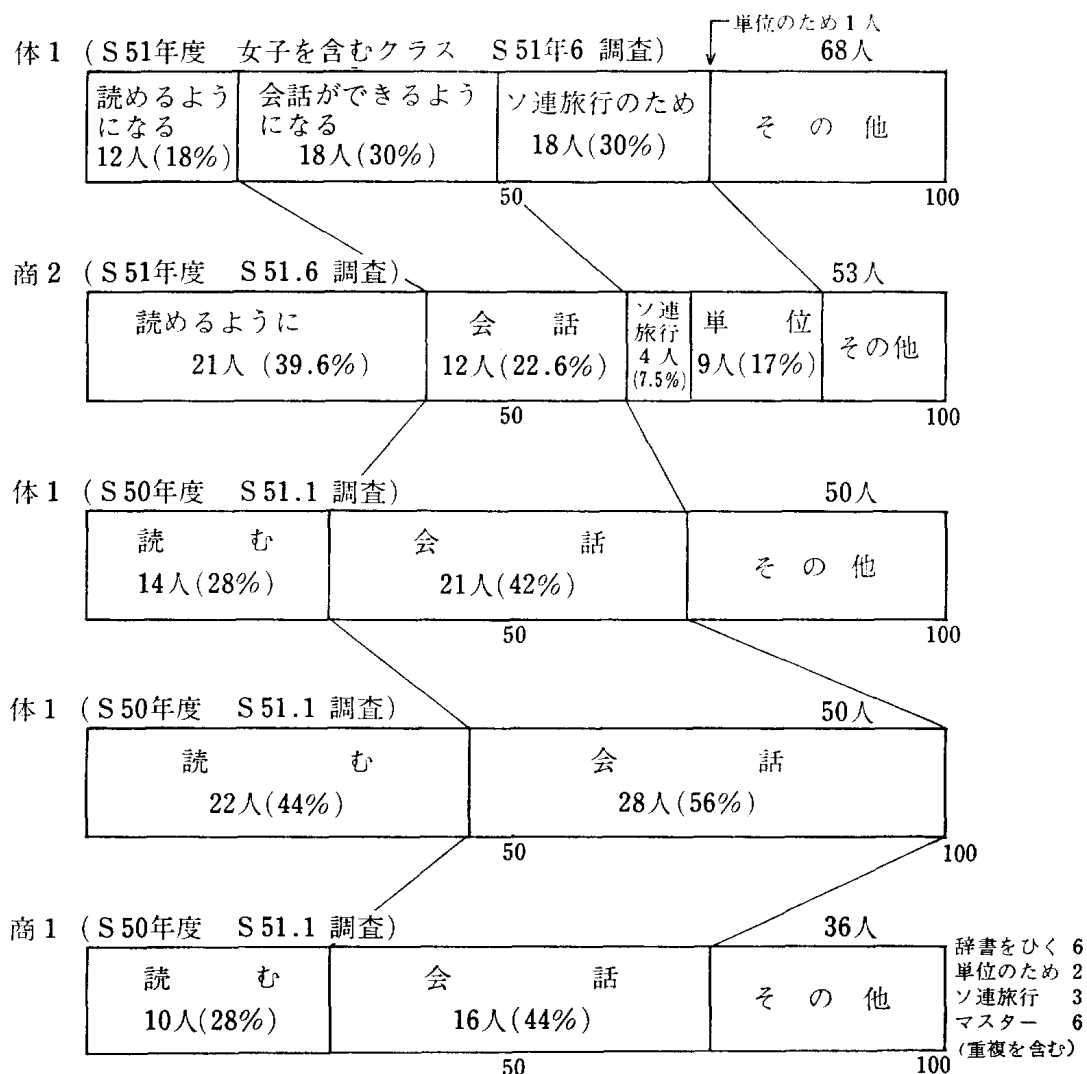
但し、量は問題で、あまり多すぎると「できない」から「しない」ということにも

なり効果は逆になる。適当な量で学習に刺激を与える程度のものであれば、宿題はあった方がよさそうである。又、一方的に出すだけでなく、添削をして返してみたが、それは大変好評であった。もっとも、これをするには教師側に変な努力が要されるのである。

そして、宿題に関しては、工夫が必要である。自分でしないで他人のを写して出すということになりかねないのでその辺りも考慮しなければならない。

本来なら宿題は出さなくても自主的に予習をしてきてくれることが望まれるのであるが、動機との関連もあって宿題を出さざるを得ないような気もする。ただ、教師が一方的に訳や解答を述べていくということは、学生も決して望んでいないことも分ったことは大きな収穫であった。

4) ロシア語を学習する上での目標



ロシア語を学習してどうなりたいかとの間については、表に見るように、会話——しかも日常的な簡単なもの——をやりたいとの声が多い。会話のむずかしさを知ってか知らないでかは不明だが、少しくらいは話せるようになりたいとの要望が強いこと

は考慮に価する。現状でこれを重点的に実施するのは困難であるけれども、「話してみたい」との要望に答えるような要素を含んだ授業内容にしていかなければならないことを痛感する。又、「読めるようになりたい」との答えについては、一言触れておかねばならない。「読む」ということの中には、音読ができるということと、読解力をつけるの2つが含まれているのである。私の感じでは、どうも前者の方が多そうである。これは、ロシア語の文字が英語と違っていて読むのに慣れていないということに起因しているとはいえ、音読を授業時にしっかりとやっていく必要があることが分った。

商学部においては、「単位さえとれればよい」との消極論もみられるが、これは勉強全体に対する無気力感が根底にあるようで、私にははらだたしい思いがする。学生の奮気を期待する。

5) 知っているロシア語の数（単語、語句を問わない、カタカナでも可）

S51年度 体1（男子のみ） 53人 平均 14.8語

S51年度 体1（女子を含む） 68人 平均 14.3語

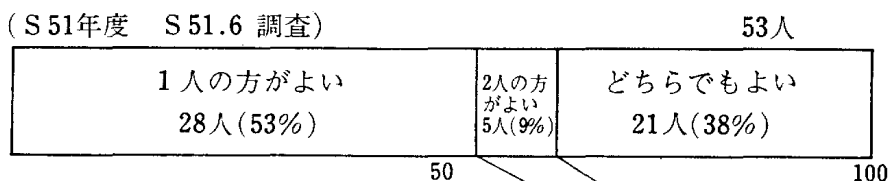
S51年度 商1 42人 平均 14.1語

S51年度 商2 54人 平均 13.3語 いずれも S51.6 調査

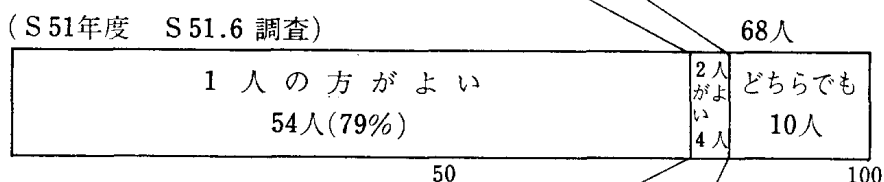
10分程度で、本を見せず記憶している単語を書かせた結果である。皮肉なことに、2年生より1年生の方が多く知っていたのである。理解できなくもないが、決して好ましいことではない。この結果をみて、どういった分析をしたらよいのか分らないが、案外知っているのではないかという気がする。これは、授業が日頃どれだけ学生の「耳」に残っているかということのいいバロメーターではないかと思われる。但し、ロシア語は、英語との表面的な違いによる不慣れがあって、学生のうちに、「覚えにくい」との気持ちがあることを付しておく。

9) 1年生につき、2人教師制はよいか悪いか？

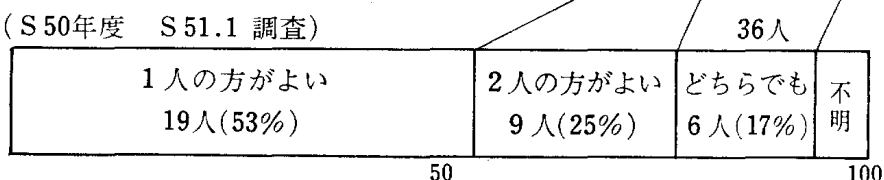
体1（S51年度 S51.6 調査）



体1（S51年度 S51.6 調査）



1（S50年度 S51.1 調査）



ロシア語では、1年生について各学部担当教師をおいて、その学部の授業は週2回とも担当する制度をとっているが、複数クラスが開講されている場合、週1回ずつ別々の教師が担当することもある。そのクラスについてのアンケートであるが、私のもったクラスでは、「1人の先生に2回習う方がよい」との声が多数であった。2年生は単位が別々なので、問題はないが、1年生の場合、できるだけ同じ先生が教えた方がよさそうである。理由としては、「先生によって教え方が違う」、「発音が少し違う」、「黒板の字も違う」といった厳しい声で十分であろう。

可能な限り、1年生については、1人が2回担当するようなカリキュラムを組みたいものである。

7) 現在の授業に対する感想

私個人の授業についてどう思っているか、批判、注文を含めて毎年学生に問うてきた。反省の材料としてまとめてみた。この場合、1年生に対する授業法と2年生に授業する場合のそれとでは若干方法その他が異なるので分けてみてみたい。

A. 1年次の授業について

昭和50年度 (S 51.1 調査)

体1 A (男子のみのクラス) 50人

批判的な意見, 注文

教授技術	・教師だけでやらずに、もう少し学生にあてては	2
	・授業の終わりにカードに書かせるのはやめて欲しい	1
	・もう少し分りやすく説明して欲しい	1
	・テキストにとらわれず、自由な授業をして欲しい	1
進そ 度の 他	・進み方が早い、ペースをおとして欲しい	8
	・全員が理解してから次へ進んで欲しい	1
	・時間ぎりぎりまでしないように	1
提 言	・小テストをして欲しい	1
	・単語を覚えさせるとよい	1
	・もっときびしくてもよい	2

肯定的評価

全 体 的	・このままの調子でやって欲しい、満足している	13
	・よい授業だった	6
	・楽しい授業だった	4
	・おもしろかった	3
	・わかりやすかった	2
	・いい思い出になると思う	1
私に 個対 人し	・若いので授業がはつらつとしている	1
	・とっつきやすかった	1

その他

- ・標準語で授業をせよ 1
- ・1時限目に授業があるのはつらい 1
- ・大学教授は一般に権限が強すぎる 1

体1 B（女子のいるクラス） 50人

批判的意見，注文

教授技術	・学生にもっと答えさせては	2
	・黒板の字をもっとわかりやすく書いて欲しい	1
	・レベルをさげて授業をして欲しい	1
進度その他	・進度が早すぎる，ペースをおとして欲しい	11
	・授業をぎりぎりまでしないで欲しい	5
	・休講がない	4

肯定的評価

全体的	・楽しくてよかった	6
	・おもしろかった	6
	・このままで満足	4
	・他の授業と比してよかった	6
	・わかりやすかった	5
教師個人に関して	・フンイキがよかった	2
	・まじめである	1
	・個人的におもしろい	1
	・人間性を感じた	1
	・熱心に教えてくれた	1
	・年令的に話し易さを感じた	1
	・話す言葉（関西弁）がよかった	1

商1

36人

批判的意見，注文

教授技術	・学生にあててやった方がよい	1
	・復習の時間が欲しい	1
	・カードの裏に書かせるのはイヤだ	3
	・練習問題をもっとゆっくりと	1
進度その他	・進度が早い，ペースをおとして	8
	・授業時間が長い	2
	・きびしすぎる	1

肯定的評価

全 体 的	・現状で満足だ	7
	・わかりやすかった	4
	・おもしろかった	1
	・上手に説明してくれた	1
私 個 人 に 対 し	・学生ととけこんでいてよい	1
	・家族的フンイキがあった	1
	・親しみがもてた	1
	・親切であった	1
	・学生の気持を理解してくれていた	1

昭和51年度（S 51.6 調査）

体1 A. B クラス（総合） 53人+68人=121人

批判的意見，注文

教 授 技 術	・例題を多く取入れて欲しい	1
	・読み方の練習をもっとするように	1
	・分らないものに対して，レベルをダウンして欲しい	4
	・ロシア語でもっと話して欲しい	1
	・宿題はない方がよい	1
	・ソ連のことをもっと話して欲しい	1
	・テープを使用して欲しい	1
	・しゃべるのが早い	1
進 度 そ の 他	・進度が早い，ペースをおとして欲しい	5
	・もう少しペースをあげて欲しい	1
	・時間ぎりぎりまでしないで欲しい	3
提 言	・テキストがむずかしい	1
	・もう少しきびしく	1
	・予告的説明をしてくれれば予習がしやすくなる	1

肯定的評価

全 体 的	・現状で満足している，このまま続けて欲しい	36
	・おもしろい	32
	・楽しい	10
	・勉学に打ち込めるおもしろさがある	2
	・わかりやすい	10
	・興味深い	1
	・よい	4

私 個 人 に 対 し	・他のクラスにないなごやかさがある	2
	・学生の気持ちを理解している	1
	・親しみを感じる	4
	・スキンシップがある	1
	・大学教師として型にはまらずよい	4
	・熱心に教えている	1
	・ユーモアがある	1
	・言葉がおもしろい	1

その他

・何とも思わない	3
・意見なし	1
・あまり面白くない	1

全体的にみて、現状に肯定的評価をしているものが多く、資料として、掲載することには抵抗を感じたが批判、注文もあるので載せることにした。

どうも進み方が早いようである。1年間にやるべきだと思いう量を配分してやってはいるのだけれども、それが進度に「早い」という印象を与えているのは意外であった。が、率直に反省したい。復習をくわしくやるなどして、理解度を確かめつつやっていきたい。その他では授業を時間いっぱいやることに対する不満が目立つが、これは理解はできるにしてもそのまま認めるわけにはいかない。但し、延長はなるべくしないようには心がけたい。注文や提言は一つ一つ参考にしていきたい。

肯定的な意見としては、「楽しい授業だ」とか「おもしろい」とかの声が多くホッとしている。私個人については、年令があまり離れていないせいか割合親密感をもっていてくれるようで、当方としてもうれしい気持がする。楽しく学べるよう心がけていたつもりであるが反面ごく一部に「もう少しきびしくても」との声があるのは気になる。しかし、個人には個人のやり方があるもので、私としては、自分のやり方に確信を持って続けていきたい。とにかく、学生とともに勉強をすすめていくという姿勢は堅持したい。

B. 2年次の授業

昭和49年度（S51.1調査）

体2 A. B

批判的意見、注文

教 授 技 術	・会話ができるようにして欲しい	13
	・レベルをもう少し下げて欲しい	1
	・昔話、童話、歌などを学びたい	6
	・単語を覚えさせるようにしては	1
	・宿題、シケンが多すぎる	1
	・テープを利用してほしい	1
		1

授業内容 (テキストを含む)	• テキストの内容がおもしろくない	3
	• テキストはもっとうすくてもいい	1
	• 活字を大きくせよ	1
進度他	• 進度が早い	1
	• 夏休みの宿題はいやだ	1
ロシア語	ロシア語はむづかしい	5
提言	• 平常点を重視して欲しい	1
	• 教師は1人にして欲しい	2
	• 休講がなかったので適当に休んで欲しい	2

肯定的評価

全体的	• 満足している	5
	• 楽しく学べた	12
	• わかりやすかった	2
	• 1年より興味がもてた	2
	• 1年より好きになった, 少し分るようになった	9
	• 宿題をやって理解できるようになった	2
	• 日常会話, 歌などを覚えられてよかった	5
	• 他の授業と比べてよい	2
	• おもしろかった	3
個人について	• 宿題をなおしてくれてうれしかった	2
	• 生徒とつながりをもとうとしている	4
	• 関西弁がおもしろかった, なつかしかった	7
	• ヒューマニティを感じた	1
	• ユーモアがあった	4
	• 学生の気持を理解している	2

学生自身の反省, その他

• まじめにやらなかったことを反省している	9
• 2年間しても何もわかっていない	7
• 2年間やったという自信がない	9
• 社会に出て役に立つかどうかは別としてやってよかった	4
• 2年間してもったいないような気がする	3
• 2年では足りないのでは	3
• このままやめるのは残念だ	1

昭和50年度

商2 (S 51. 1 調査) 48人

批判的意見，注文

全 体 的	・宿題はつらかった	2
	・意味中心より文法的なことをもう少し入れて欲しい	1
	・他のクラスのペースに気をとられる必要なし	2

肯定的評価

全 体 的	・よかった	5
	・現状で満足している	5
	・1年より興味が出た	3
	・おもしろかった	4
	・楽しかった	5
	・少し理解できるようになった	2
	・わかりやすかった	1
	・宿題をやって，辞書も少しひけるようになった	6
私 個 人 に 対 し	・教師と学生がとけこめた	7
	・ムードがよかった	1
	・宿題をなおしてくれてうれしかった	1
	・全員参加のやり方をしたのがよかった	2

2年生については，従来より，授業時に，辞書をひかせるよう心がけてきた。20分位は「作業」をさせるのであるが，これは大変好評のようである。その場で辞書をひくむずかしさ，あるいはひけたときの喜びを味わうことができるからである。それによって「少しおもしろくなった」とか「少しわかりかけてきた」との反応がでてくればこれ以上のものはない。

ソ連の話，ロシア民謡，日常会話表現をしてほしいとの要望が出ているが，これはできるかぎり，実現していきたいと思う。私個人に対するものは，1年生とあまりかわらないようである。ところで，2年生が2年間のロシア語学習を終える段階で「あまりわからなかった」、「少しも覚えていない」、「もうやりたくない」との気持ちをかなり多くのものがもっているのは残念である。1年生での授業と連続させて全体的にロシア語教育について考え直す必要があることを痛感している。

資料2

実施日時 昭和51年6月25日（金）1・2時限

対象学生 体育学部1年次

第1時限 A・B・C組

65名+㊦9=74名のうち55名

第2時限 F・G・H組

78名+㊦2=80名のうち61名

(1) 何故ロシア語を選択したか？

他人からすすめられて		自 発 的 に
先輩のすすめ 68名 (58.6%)	11名 (9.5%)	35名 (30%)

寮あるいはクラブの先輩からすすめられてロシア語を選択した学生が多い。中には本人は〇〇語を選択したかったのだがと記している学生もいた。先輩以外では、同級生・友達がロシア語を選択するのでという附和雷同型（8名）が目立つ。自発的に選択した者のうち「なんとなく」（7名）「簡単だと思った」（8名）という消極的な動機が半ば近くを占める。「興味があって」（7名）「もの珍らしさ」「面白そう」「話したい」（各2名）等積極的に選択した者は合わせて20名であった。

(2) ロシア語を選択して後悔しているか？

している	していない	不 明
48名 (41.4%)	44名 (38.0%)	24名 (20.6%)

中間試験後に行ったこの調査で早くも多くの学生達は後悔し始めている。他の科目と違って未修外国語は4月に全員が同じスタートラインにつく科目である。そして例年この時期に個々の学生がどこまで習得し得たか、またし得るかの見通しがつくのである。学年制のため未消化のまま教室に出るという制度上の欠陥か、それとも自己の不勉強を知り夏期休暇中にその遅れを取り戻す努力をしない学生の責任であろうか？「どちらともいえない」とはっきり答えた者が20名いたが、他の語学と比較できない学生にとっては案外返答に窮する設問であったのかも知れない。むしろ2年次終了の段階で問うべきではなかったかという反省も残るが、教師としては中間段階で学生の「やる気」を確かめたいのである。

(3) 宿題はあった方がよいか？

あった方がよい	少しならよい	不 要
13名 (11.2%)	74名 (63.7%)	28名 (24.1%)

この設問に対しては現在行われている宿題に対する意見が返ってきた。レポート用紙一枚程度の分量で週に一回乃至二回、特に中間試験後は二回宿題を課してきた。「少しならよい」のうち41名（35.3%）は週一回を希望し、22名は二週間に一回を希望している。大半の学生から支持されている宿題だがその理由は自主的・自発的に予復習しない学生の姿が浮かび上がってくる。宿題に反対する意見は「授業を日常生活に持ち込みたくない」「クラブで疲れる」「他人のをうつすだけで頭に入らない」「授業

がわからないから宿題もわからない」等々で公表するのものはばかれるようなものばかりであった。

(4) ロシア語学習の目標は？

目 標 あ り			目 標 な し	
会 話	そ の 他	単位が欲しい	目標なし	無 回 答
26名	33名	20名	18名	19名
(22.4%)	(28.6%)	(17.2%)	(15.5%)	(16.3%)

「単位がほしい」という者を除いても半数以上の学生が何らかの目標をもっているという結果がでた。「その他」の内訳は「旅行」(9名)「読める」(8名)「少し知りたい」(8名)等々である。

(5) 知っているロシア語の単語を書きなさい

最 高	31語	1 名
最 低	0 語	1 名
平 均	14.6語	

これだけしか暗記していないと考えるのは早計である。「20語位書きなさい」と指示したため余力があっても20語しか書かない者がいたし、一般にこの種の質問をいきなりぶつけられると人はとまどうものであることを考慮に入れる必要がある。

資料 3

ロシア語教育についてのアンケート調査から

本年7月9日筆者は、体育学部2年生で、担当のクラスに在席する学生を対象に(再履修生を含む)、ロシア語教育に関する次のようなアンケート調査を実施した。アンケートは四つの質問からなっており、その回答方法には何の制約も条件ももうけずに自由に書いてもらい、匿名で提出させた。「はい、いいえ」式のアンケート形式を避けたのは、そのために必要とされる科学的な知識を、筆者は不幸にも持ちあわせていないのと、なるべく生のままのかたちで学生の声に接してみたかったからである。

補講期間に入っていたためか回答提出者は全受講生の7割にしか満たぬ97名であった。ひとつの質問について複数の意見を書いている例が若干あったので、意見数の総計は提出者数を上まわっている。各質問に対する回答を類型ごとにまとめ、回答者たちとともに、ロシア語の教授を通じてもう一方の当事者になっている筆者の分析と意見を述べ、今後のロシア語教育改革のための基礎資料としたい。またそのためにも多くの方々から御批判いただければ幸いと考えている。

〔質問1〕 現在行われているロシア語の授業への批判を述べよ

授 業 の 内 容 に 関 す る 回 答		意見数
難 易 度	<ul style="list-style-type: none"> ・むずかしすぎる, わかりにくい ・基礎力がないのでむずかしい ・週一時間の授業にしては程度が高い 	12
	<ul style="list-style-type: none"> ・初めての語学にしては内容が高度で準備がたいへん ・二年生では自発性が要求されるので, むずかしすぎる ・文法はわからないが, 訳はゆっくりやればできそう ・一年生の時と比べてわかりやすくなった 	2
魅 力	<ul style="list-style-type: none"> ・興味をそそるような授業をせよ ・もっと体育学部むきの面白くてわかりやすい授業にせよ ・去年よりも内容が薄く, 変化がなくて興味がわからない ・去年よりも内容は良くなった 	3
		1
教 科 内 容	<ul style="list-style-type: none"> ・日常会話を教えよ ・辞書を使って本の意味を調べるだけなら, 会話などは無理 ・身近で使えるような言葉も教えてほしい ・いまだに発音がわからないので発音指導に重点をおけ ・読む力をつけることにもっと時間をさけ ・範囲は少なくし, 読み方, 訳し方をもっと徹底的にやれ ・文法の理解が浅くて二年の内容がわからないので文法をやれ ・もっと文法が身につくようにやってほしい ・一年でやった基礎のことを時どきやってほしい ・基礎的な段階にもっと時間をかけるべきだ ・ほかの内容(物語など)をやってほしい ・基礎ばかりでなしに小説もやってほしい ・二年次ロシア語をふたつに分けるなら内容に差をもうけよ ・一年のうちから長い文に接した方が理解が進んだろう ・翻訳中心をあらためよ 	5
		4
		2
		3
		2
		1
		1
		2

筆者のクラスでは体育学部の一年生が昨年使用した教科書の第二編をひきついでやっている。第一編はほとんどが文法と練習で, 二年になってようやくテキストに接したわけである。従来ロシア語教育では, 初級から中級へ移行する際に適当な教材が不足しているといわれてきた。その意味では第二編のテキストは考えるかぎりでもっともやさしいはずのものだが, 学生がそれでもわからないといっているのは, 彼らも認めているとおり, 基礎的学力が全く不足しているからである(文字すら満足に読めないのである)。アンケートを見て, 一年次の教育を根本的に変えなければならないとあらためて考えさせられた。

授 業 の 方 法 に 関 す る 回 答		意見数
授業の密度	・進度が早すぎるのもっとスローペースで	8
	・たまには授業を休め、自宅学習でもできるのだから	1
	・毎時間の進みぐあいをあらかじめ教えてほしい	1
教授技法	・同じ文章を何度も読んでほしい	1
	・訳読の際には決定訳をはっきりと言いかえしてほしい	2
	・テープを使って読み方の練習をさせよ	1
	・字ばかりを追っていては頭に入らないので絵などを使え	1
	・辞書持込み不可の試験は、少々の単語を暗記しても通用しない	1
	・もっと集中的に授業せよ	3
	・授業中にむだなことをせず、てきぱきと進めるべきだ	
	・無駄話が多くてよくない	
	・先生中心の授業でよくないが、学生の基礎力不足も原因	2
	・もっと分かるように教えよ。くわしく教えぬ先生がいる	3
	・つめこみ授業で、学生の理解度を無視している	
	・もっとわかりやすく説明せよ	
	・現在のような方法でやっても何の価値もなく時間のロスだ	1
	・教師によって教え方が不統一だ	1
	・きめられた時間内にきめられたことを機械的にやっている	1
	・ただ当てられるからやるというような授業だ	1
	・先生の言葉がはっきりしていてわかりやすい	1
	・読めない個所がある時、先生が教えてくれるのでよい	1
学負生担の	・毎回指名して答えさせるな	1
	・宿題が多すぎる	1
教育体制	・二単位ずつに別れ教科書が違うため負担が重くなった	1
	・時間数をふやすか、さもなくば到達目標を低めよ	1
	・もっと少人数にせよ	1
	・二年ロシア語を二つに分け、二度試験することに反対	1
	・一年の時二人の先生に交替で教えられてやりずらかった	1

昨年度までは全員の学生にテキストの下調べをさせ、さらに個別的に訳する個所をわり当てたが、その結果当てられた者以外は全然準備してこないという事態が生じた。今年は名簿を見ながらなるべく全員にまんべんなく当て、答えられないものはチェックしてどんどん先へ進むことにした。このことが学生にはえらく不評のようである。たしかに辞書もよく使えない学生たちにとっては、毎週半ページ程度の下調べさえ苦痛であろう。あきらかについて来れないもののがかなりいる。また教える方としてはくどいほど解説をしているのだけれど、品詞の区別もつかぬような学生にとっては、理解以前の問題なのであろう。

しかしアンケートを読んで大多数の学生の水準から再出発する以外に、ロシア語教育のたてなおしはないということを痛感した。学生側の自発心も、理解し始め興味が出だしてからしか、生まれないのかもしれない。

授業の雰囲気と勉強態度に関する回答		意見数
教師への注文	・教え方に押しつけがましさが見られる	1
	・授業の準備をやってこなくとも屈辱的にあつかうな	8
	・質問に答えられない時の学生に対する処置に一考を要する	
	・まちがえたからといって批難するな	
	・先生がきらいだ（理由は不明）	
	・きびしいだけでつまらない	5
	・学生に対してどんな気持で対面しているか考えろ（?）	
	・教師をうっとうしくおもう（理由は不明）	
	・一方的な講義で基礎を教えられたから、今でも読めない	
	・先生の指導について行けず、分からなくなり、いやになった	1
	・勉強意欲がわくような授業にせよ	
	・理解せぬまま放っておかれている	
	・教師の単独授業を批判したいが、学生の積極性も望めない	
学生自身の反省	・授業時間が長すぎる、はやく切りあげよ	4
	・すこしぐらいロシア語ができるといっていばるな	1
	・教科書批判になるようなアンケートはとるべきでない	1
	・リラックスした授業にしてほしい	1
	・授業内容がよくなったが、学生に受けようとする気持がない	1
	・学生の雑談のボリュームを下げさせよ、聞きとれない	2
	・学生は単位をとるためだけに出席している	2
	・本人の姿勢に問題があるのだろうが学生の個人差が出すぎている	1
	・単位をとるために出ているだけで中途半端になりがち	2
	・予習・復習をしてこないとさっぱりわからない	1

就任したての頃、あまりに怠惰な学生たちにたまにかね、教師が全部請負って授業をすすめたことがあった。学生たちは教師の口から発せられる訳文をただ丸写しに書きとって、試験の時にはそれを再び吐き出すだけだった。その後、何とか学生たちに自分の頭で考えさせ、わからない状態からわかった状態へ移った時のあの感動を体験させたいと思った。そのためにはとにかく学生諸君にやってもらう以外にない。自分でもきつすぎるかなと思うくらい、学生たちを一人一人指名して無理に答えさせていることがある。たしかに、答えられない学生が、人格的に傷つけられたような気持を持ったとしたら問題だ。しかし、学生たちにほんのわずかでも未知のものを知りたいという欲望があれば、教師の「侮辱的発言」はのり越えられるはずだろうと思う。時間いっぱい授業をするなという要求は、なるべく無視することにしたい。そういう癖

は頭健康に良くないからだ。

無 回 答, そ の 他		意見数
反応なし	・無回答	3
	・別になし	9
積極的 反応	・満足している	1
	・一年の時よりもロシア語をやろうという意欲が出てきた	2
	・二年になってロシア語の良さがわかりかけてきたが良し悪しの判断ができるほどではない	1
消極的 反応	・おもしろくない	2
	・きびしい（教師の態度か、科目の難度か不明）	1
	・英語が何年かかってもできないのに、またひとつ加わってぞっとする	1
	・興味がないし、わからない	2
	・努力もせずにおこがましいが、とにかく苦痛（将来役に立たぬから）	1
	・批判するところなし（多分に皮肉をこめて）	1

質問1に対する回答を見て、最大の問題は学生たちが、何のためにロシア語を勉強するのかを理解していないことだろうと思った。おそらく彼らが受けている授業の科目のひとつひとつは、体育（場合によってはクラブ活動）との距離によって、その価値をはかられているのだろう。だが、ロシア語は彼らの興味を持っている体育とそんなに無縁であろうか？ この点は現在の体育学部の学生によく考えてもらいたいと思う。さて無縁だという答がでたら、その次に無縁なものはやりたくないという考えが人間的かどうか考えてもらいたい。

〔質問2〕 体育学部のカリキュラムの中で、第2外語
（ロシア語）を君はどう評価するか

肯 定 的 傾 向 の 評 価		意見数
積極的 評価	・体育学部といえど第2外語はプラスになるからあってよい	15
	・実技だけではだめ、教養を身につけるためにはよい	
	・現在あまり重視されていないが、もっと重視されてよい	
	・二年間だけで終わるのは中途半端	
	・他の授業より興味が深いし、やっているという実感が得られ、教師を身近に感ずる	
	・今後ロシア語は世界の中心になりそうなので、学んでよかった	

相 対 的 評 価	<ul style="list-style-type: none"> ・あまり役立ちそうにないが、最後までがんばる ・英語対ロシア語が1:2なら、ロシア語の評価はよくなるかも ・いやだが、専門知識を得る手段として必要だから、徹底的にやってほしい ・教養としての意義があるので、重視はしないが、軽視もしない ・直接関係はないが、将来何かの役には立つだろう ・新しく学ぶ語学なので一応理解しようと努めている ・必要性は感じないが、あってもいいのではないか ・辞書を引いてわかる程度の知識があればよいと思う ・ある程度読み書きできる程度でよい ・不完全でも、体育方面で使われるような機会に理解できればよい 	11
悲が 観ら 的評 な価	<ul style="list-style-type: none"> ・週一時間ではあまりに少ないし、実技もあるのでこれ以上は無理 ・せめて幼稚園程度の本を読めるようにしたいが、二年間では無理 ・マスターするためには時間が少なすぎる 	3

肯定的な回答も、理由はそれほど積極的でない場合が多い。概して語学を「教養」としてとらえる傾向が強い。筆者自身は語学を「教養」として教えたいたいと思っていないし、そのように教えたことはなかったつもりなので、いささか当惑した。学生達が体育に関する学問や実技を通じて成長していく際に、もっとも日常的なところで、「道具」として使用してもらえないかというのが、願望なのだが。現実には「教養」にさえなり難いようだ。

否 定 的 傾 向 の 評 価		意見数
不 必 要	<ul style="list-style-type: none"> ・必要なし（英語だけで十分、英語さえできないのだから、英会話でもした方が） ・必要なし（体育大学だから、体育の教師になるのだから） ・重要と思われない（卒業後に使う機会がないから） ・無意味だと思う ・卒業後ほとんど役に立たないのだから、出席だけで単位を与えよ ・体育学部なのにあまり第二外語が重視されるのは考えものだ ・いやな勉強だ 	29
不 本 意	<ul style="list-style-type: none"> ・ただ単位をとるためだけの科目だ ・たんに一般的な教養としてしか見ていない（用いることがないから） ・さわり程度でよいのでは（具体的に役立つわけじゃないのだから） ・授業だから来るだけで、評価するほどじゃない ・不得意な科目が二年で終わりになるのはうれしい ・カリキュラムにある以上、自分の意志とは反対にやむなく勉強している ・英語も含めて外国語は自由選択にしてはどうか ・程度が体育学部にしては高すぎる ・第二語学の授業日数が多い ・つけ加えみたいな授業だ 	19

現状批判	<ul style="list-style-type: none"> ・今までの状態はよくない ・今のカリキュラムでは、とてもついてゆけない ・ロシア語Ⅱ，Ⅲを週に一時間ずつでなく前期と後期に分けよ ・Ⅱ，Ⅲを同一の教師が教えたなら、違った効果があるのでは 	7
その他	<ul style="list-style-type: none"> ・とてもむずかしい ・第二語学の中ではわりと単位がとりやすい ・勉強したことがない ・やっているのに全然頭に入ってこない科目だ 	3 1 1 1
無回答	・無回答，別になし，何ともいえない	12

体育学部の図書館の「定期刊行物閲覧室」にはソ連のスポーツ新聞が置かれている。日本のどんな新聞にも載っていないホットな情報に、その気になればすぐにでも接することができるのである。書庫にはロシア語で書かれた体育関係の文献もある。それらが、役に立たないものなら、中京大学は無駄な出費を重ねていることになる。「絵かきは絵だけ描いておればいい」、「ラッパ吹きはラッパだけ吹いておれどいい」という類の論理が、体育学部の学生の思考を支配しているのは残念である。それでも学生たちはマンガをよく読んでいるようである。「卒業後ほとんど役に立たない」だろうに。

〔質問3〕 理想的な語学教育の条件があり、もし本当に大学の四年間でロシア語をマスターできる可能性があるとしたら、君は苦勞もいとわずロシア語の勉強をしてみたいか

肯定的回答および願望的回答		意見数
希望あり	<ul style="list-style-type: none"> ・そのような可能性があるならやってみたい ・可能性があり、自分に本当にやる気があるなら勉強してみたい ・「苦勞もいとわず」というところにひっかかるがやってみたい ・もしもそんな可能性があるとしたら、ある程度は苦勞していい ・勉強したい（ほめられることだから←真意不明） ・勉強してみたいような気もする 	25 6
条件付で肯定	<ul style="list-style-type: none"> ・ある程度はしたいが、マスターするほどでなく、基本的なことをもう少し学びたい ・クラブ活動をやめて可能性がでてきたらやってみたい ・少しは興味があるが、現在ロシア語以上にやりたいことがあって無理 ・時間がゆるせばやりたいと思うが、現在のような状態ではちょっと考える ・自分が努力できる範囲ならやりたい ・やってみたいが、苦勞もいとわずというわからない ・ロシア語のみと限られると考えてしまうが、できるかぎりはやるだろう ・会話ができればいいからしてみたい ・やってもいいが、ロシア語を選んだのはまちがいだった 	10

不安	<ul style="list-style-type: none"> ・自分に人並の能力があるならやってみたいが、できそうにない ・勉強してみたいが日本人には少しむずかしすぎると思う（何語でもマスターしたいが） ・してみたいが、どうしてもやる気がおこらない 	3
----	---	---

質問3の回答を読んで、質問1, 2に対する回答との間にズレがあるのを感じる。このズレは、現状の語学教育環境は決定的にダメだという認識が学生の中にあり、そうでなければ「自分だって少しぐらいできるはずだ」という潜在意識があることを物語っている。筆者はそういう意識がまちがっていないと考えている。70人近い学生と一緒に週に一度（他の教師の同様の授業を入れると二度）訳読中心の授業をしても、あまり効果があがらないことは自明の理だ。しかし中にはこういう教育環境の中でも感心するぐらい語学力をつけてくる学生が現れるのを見ると、教育条件の改善の重要性をあらためて感じさせられる。

否 定 的 な 回 答		意見数
拒否	<ul style="list-style-type: none"> ・したくない ・ロシア語自体に興味を持っていない ・ロシア語が好きじゃないからしたくない 	24 3
理由付拒否	<ul style="list-style-type: none"> ・英語を六年やってもわからなかったのだから、やらない ・苦勞してまでやりたくない ・必要がないものはしたくない ・むりだ（クラブ活動で疲れてしまうので） ・将来体育方面で必要なのならやってもいいが、ほとんど利用価値がないからしない ・「苦勞もいとわず」に抵抗を感じるのでやりたくない（「理想的条件」に懐疑的） ・魅力は感じるが、英語が先だから、そこまでやる気はない ・現在は英語か中国語が重視されているので、訪ソするのでもないかぎりやらない 	14
その他	<ul style="list-style-type: none"> ・別に四年間でやる必要なし、やりたければ自分で自由にやればいい ・本人に意志さえあればマスターできる可能性はあるはず（理想的条件なくとも） ・ロシア語よりもドイツ語の方がよかったかな？ 	3
無回答	・無回答、なんともいえない	5

拒否反応を示した回答の多くが、なぐり書きされたものだった。

教育にたずさわってみて、教える側と学ぶ側に緊張関係がなければ、これほどむなしい仕事はないと思った。試験のたびに、なぐり書きされた答案がいつも2～3割出てくるが不思議にも理由ぬきの拒否回答をよせたものと数が一致する。一方、クラブ

活動との両立が困難だから不可能だという回答がいくつかあったが、教師にとってはむしろ納得のいく考えだ。また英語でも、中国語でもドイツ語でも、母国語以外の言葉を、やる必要性をばく然とでも感じている学生には救いを感じる。

私立大学の現状からして、また第二語学というカリキュラム上の位置付けからいって急速な改善は望めないにしても、意志と能力のある学生を伸ばしてやねばならないと思う。

〔質問4〕 その他日頃感じていることがあれば述べよ

主として教師に対する要望、不満		意見数
要 望 事 項	・ロシア語の専門家になるのじゃないから、そんなに真剣に授業に取り組まなくていい	1
	・教科書が終わらなくとも、学生の理解度を深めることに力を入れてほしい	1
	・もう少し面白い講義をやってほしい	2
	・教科書にそったカセットテープがほしい、自宅で読む練習をしたい	1
	・黒板に例文を記しながら進めよ	1
	・どうせものにならないのなら、難文をやるより、マンガとか面白いテキストを	1
	・テキストの訳を何度も読みあげてほしい	2
	・授業をたのしくやりましょう	1
	・テストの時は辞書を使わないとできない	1
	・ロシア語のわからないもののために、わかりやすい授業を	1
	・内容をもっと簡単に	1
	・授業中に聞きとれなかったところを質問したいし、すぐに答えてほしい	1
	・先生によって発音が違うので統一してほしい	1
	・この大学のカリキュラムは徹底したところがない	1
	・先生は天気によってきつい時とおもしろい時がある。感情を出さないで	1
	・時には基礎的事項の復習をやってほしい、早く進むとわからない	1
	・ロシア語のアルファベットの読み方を日本人向きに変えてしまっ ては	1
	・語学を学ぶために体育学部へ入ったのではないから、自由にさせてほしい	1
不 満 ・ 懇 願	・授業についてゆけず、わからず、おもしろくない(教師への非難)	2
	・出席をとるな	1
	・先生によって違いが大きい	1
	・進級させてほしい	1
	・あなたの授業はバカらしい。もっとまじめに、学生にわかるようにやれ	1
	・まじめに出席しているものには単位をよこせ	2
	・単位をください	2
	・自分のように、読めも書けもしないものが単位をもらえるような授業はおかしい	1
	・単位は皆に与えるべきだ	1

質問4への回答は、1, 2, 3への回答と重複するものが多かった。教師の態度に対する批判は率直に受入れたい。また馴染のうすい、あるいはとっつきにくいロシア文字がスラスラ読めるようになると、学生のロシア語に対する態度が一変しそうな気配なので、今後の授業で生かしたい。筆者はかねがね、一年で文法、二年で訳読という語学の授業形態に根本的な批判を持っているので、今後は他の教師たちとも協力して旧習墨守的な教育法を改めようと思う。

不満や懇願の多くは退嬰的性格を帯びている。筆者はそのような学生が在学し続けていること自体に疑問を持つ。

学 生 自 身 の 反 省 と 悩 み		意見数
学生自身への批判	・単位取得だけが目的で、集中力、真面目さに欠ける学生が多すぎる	1
	・全体が勉強するという感じになっていない	1
	・授業がうるさい	2
	・授業内容は去年よりよいが、クラス内の雰囲気は落ち着かせるべきだ	1
	・さわがしくて楽しさがない	1
	・カンニングの多さにおどろいた、日頃真面目にやっているものが馬鹿をみる	1
進歩のよろこび	・だいぶ読めるようになってきたが、もう少しじっくり授業をやってくれたら	1
	・初めての語学で、こつこつやればできそう、予習をやるようになって面白味が出てきた	1
	・一年の時に比べて字がよめたり、辞典がひけるようになってうれしい	1
	・耳からの勉強をたしかなものにしたい	1
いやけ、くじけ	・授業がたいくつだ、やりたくないというのが本心	1
	・ロシア語はむずかしくてさっぱりわからない	1
	・日本語すらまともに出来ないのに、語学をする余裕はない	1
	・ロシア語などの外国語はむずかしくていやだ	1
	・語尾変化が多く、辞書がなかなかひけない	1
	・もっと発音がよくできたらいいと思う	1
	・予習に時間がかかりすぎて、勉強する気がしない	1
	・語学が一番の難関で、卒業のために単位をとるのがせいいっぱい	1
	・一生懸命やってもなかなかむくわれない、今の授業には何かもの足りない	1
	・自分に無縁のような気がして意欲もない	1
	・体育方面の自分の目標が、教養科目のために邪魔にされている	1
	・発音のむずかしい言葉だ	1
無回答		46

語学の授業は出欠の点検が厳密なために、授業へ参加する意志のない学生たちも教室に出てくる。もちろん彼らは授業の準備などはしていないし、授業の内容も理解で

きないので、いきおい雑談にふけるわけである。時間中に筆者は少なくとも10回は注意をうながすが、ものの3分としないうちに私語が再開されるのである。今まで何度激怒したか知れない。筆者はそれでも彼らを放任したり、譲歩したりするつもりはない。対策の名案があったらお教えいただきたい。

わずかながら勉学の喜びをおぼえ始めている学生がいることは、教師のはげみになる。しかしその何倍もの学生が、いや気がさしていたりくじけたりしているのは重大だ。強引に指導するだけでなく、彼らの水準にまで何度も立ちかえりつつ先へ進めていく教授法を開拓する必要があると思う。

資料4

ロシア語授業について

筆者が担当する体育学部2年次の学生諸君（再履修者を含む）に対し、現在行なわれているロシア語Ⅱの授業について率直な感想（希望、苦情、注文、etc.）を書いてもらった。こんご、よりよき授業をするための参考にしたい念からである。

夏休みに入る直前の授業時（51.7.7）に行なった。調査に応じた数は100名（男62, 女17, 再履修生21）で、総員の54%に当たる。

調査をするに先立ち、教師はロシア語の授業をどのような方針で行なっているか、ということについて、即ち、2年間ロシア語を受講した結果、辞書をもてばどうにかロシア語の文献、新聞、雑誌などは読みこなせるような力を培いたい、もちろん発音、聴取の指導も並行するが、多人数クラス、時間的制約もある現状ではなかなか思うにまかせない面がある、ということ述べた。そのご筆者が現在担当しているロシア語Ⅱの授業について感想（希望、苦情、注文）等を自由にかいてもらった。調査は無記名としたが、ただしクラス名のみ記すことにした（男、女、再履修者の判別をしうるため）。

回収した学生の意見を筆者は勝手に別表のごとく内容的に類別し、それぞれに筆者の感想または意見を付した。こんごより効果的なロシア語授業をするための資料としていきたい。筆者の分析と意見に対し大方のご批判を仰ぎたい。なお、一人で複数の意見を述べている学生もいるので意見数と調査に応じた学生数とは一致しないことを予め了解願いたい。

質問：現在筆者の担当しているロシア語Ⅱの授業について
感想（希望、苦情、不満、注文、その他）を述べよ

授 業 の 内 容 に 関 す る も の		意見数
1	今のままでよい	9
2	ロシア語はむずかしい	2
3	長い文の和訳はむずかしい	1
4	辞書をひけば大体訳せるようになったが、読めない（音読）	2
5	文の和訳はどうかできるが、会話ができない	1

6	夏休みの宿題はちょっと無理だと思う (学力がないから)	1
7	授業の内容が濃くてついていけない	1
8	新聞や雑誌などをときには訳したらどうか	1
9	宿題をだしてほしい	1
10	日常会話をもっといれよ, 文法などではおもしろみがない	1
11	スポーツ関係の教材にしたら興味がでると思う	2
12	教科書の内容がおもしろくない, ミステリーとか笑い話を	1
13	会話文とかユーモア文をおりませたらどうか	1
14	夏休みの宿題は不用	1
15	歌をもっと教えてほしい	1
16	授業を離れた話とか気分転換が必要	2
17	発音をもう少しやってほしい (音読)	3
18	もう一度基礎から発音も, 変化も教えてほしい	7
19	カセットでもっときかせてほしい	2
20	まじめに出席しているのにまだロシア語が読めない	2
21	二年になりむずかしくなり, ついていけなくなった	1
22	夏休みの宿題が多すぎる	2
23	中間試験はむずかしすぎた	1

授業内容の理解度を示すものとしては上記1—7, 20—21の意見であろうと思われるが, そのなかで訳はどうかできるが読めないという声が意外と多い。実際に授業中あてて読ませても読めない学生はかなり多い。英語などと字母が違うせいかな, なかなか覚えようとしない, あるいは覚わらないのか, いずれにしても教師としてはがゆい。講読中心の現在の授業は改めて検討してみたい。単語, 文の音読をより一層くりかえし, 少なくとも全員が読める (音読) ようにはせねばなるまい。教材に関する希望はいろいろあげられているが (8—16), そのうち日常会話については学生にある程度の語学力が具らないと, 会話の授業はすぐ行きづまってしまうので, その導入には慎重を期したい。教材にバラエティをもたせることは必要であるが, 受講生の力に合った内容となると選択が難しい。

現在使用しているテキストは一年次に習った文法篇に続く第二篇として編纂されたテキストで, 難易度からいえば基礎文法を終えた者が最初に取り組みやすい内容のロシア語文である。これが難解だという学生は, 一年のとき習った文法を理解しないまま二年になったわけである。このごにおよんでは希望があるように (18), 訳読のとき文法もできるかぎり詳述していきたい。

授 業 の 方 法 に 関 す る も の		意見数
1	今までどおりでよい	9
2	授業の進展が早いのでわからずじまいに終わるときがある	9
3	もうすこしゆっくりやってもらいたい	14

4	教師が一方的に授業をやっている	2
5	先生の話し方をもう少しゆっくりしてほしい	2
6	言葉がききとりにくい	1
7	もう少しわかりやすく説明を加えてほしい	5
8	昨年と比べていねいに教えてもらっている	1
9	もっと楽しく、おもしろく学べるように	4
10	もっと辞書をひく授業を望む	1
11	授業の終わりにカードの裏面にかかせる短文は意味がない	1
12	先生が訳すのではなく、できるだけ各自で調べる形を望む	2
13	練習問題など個々にやらせるようにしたらどうか（宿題など）	1
14	もっと先生もきびしく、予習を義務づけよ	1
15	グループ学習のような形式にして訳させたらどうか	1
16	なんとか分かりかけてきた、今のままでよい	3

授業の進展に関する注文がかなりあった（2—4）、年間プログラムに沿って授業を進めているのであるが、これは学生の理解度と相対的な問題である。その見地から検討してみたい。しかし筆者個人の教え方、説明の仕方に対する苦情や希望（4—7）が多いのには胸をつかれた思いである。教師の一人よがり、学生の力を過信していたきらいがある。この点は大いに反省しこんご気をつけていきたい。またいわゆる教授技術に関する学生の意見（9—16）は謙虚にこれを受けとめ、その意欲に応えるよう一層の工夫をしていきたい。

学生自身の勉学態度、反省、心情		意見数
1	予習をもっとやらねばならないと反省している	3
2	授業がつまらなくなっているのは自分たちの責任だ	1
3	今までどおりでよい、自分たちがやる気をだすべきだ	6
4	やる気をおこさせよ、ぼくもがんばるから	1
5	先生がいつも一生けんめい授業しているので、あまりわからないが、たのしく聞いている	1
6	第一時限が陸上だから疲れてしまう	1
7	クラブで疲れて復習する余裕がない	2
8	学生の基礎的学力不足を承知で前へ進むのでやる気を失う	1
9	わからないのでやる気がでない	3
10	おもしろくない	3
11	授業が長く感じる	1
12	ロシア語を二年間でおぼえるのは困難だと思う	1

意欲的な態度（1—5）と無気力的（6—12）とに感想が分かれたことは学生自身の心がけ次第であろうが、教師たる者なんとか学生の意欲に一層応えるようにしたいと思うのは当然であろう。また担当のクラスからはなるべく落伍者はだしたくない。

少なくとも所定の単位をとるにふさわしい学力を身につけてほしい。そのための助力は惜しまないつもりである。

そ の 他		意見数
1	授業中うるさい連中にはきびしい処置をとってほしい	5
2	授業中私語や眠っている者は教室に入る資格がない	2
3	人数があまりに多いので聞きとりにくいときもある	2
4	もっと少人数クラスでやりたい	1
5	もう少し早く(20分ぐらい前に)終わってほしい	2
6	再履習者はいろいろ多忙なので欠席がオーバーしても大目にみてほしい	3
7	ソ連のスポーツに対する関心が高まった	1
8	意見なし	11

多人数のため教室の後方でときには私語が高まり、うるさいことがある。大半の学生諸君は不快に思っていることは明らかだ。勉学するふん囲気をつくる責任は教師にも学生にもある。自戒し協力しあっていきたい。

単位目当ての授業ではないことを学生も納得すべきである。

アンケートの結果を集計、分析すれば上記のごとくであるが、筆者としては、これらの希望や苦情、注文を率直に受けとめ、こんごの授業を行なう上での参考にしていきたい。

よく分からないので興味がもてない、授業が面白くないという一部の声もそれなりに理解できる。せめて30名以下の少人数クラスで授業できたらと切実に思う。多人数クラスではあるていど切捨御免という面もやむをえないであろう。落伍者をださないためには、学生の自覚を促すとともにわれわれ教師の一層の努力が要請される次第である。

結 び

資料(1)～(4)には、それぞれそのアンケート調査に当たった教師の個人的感想あるいはコメントが付されているが、各調査には特殊な事情があって、必ずしも全体的な分析とはなっていない。

それぞれの教師が反省や勇意づけを得られたただけでもそれなりの意義は認められるが、今後のこともあるので、最後に全体的な見解を4人で出しておきたい。

我々は、第2語学としてのロシア語が、学生たちにより良く理解されるよう努力してきたし、また今後も努力していくつもりである。その意味でこうした調査を行ったのであるから、ここにみられる批判は率直に受けとめたい。そして改善できるところはすぐに改善したい。ただ、多人数での授業であるため、すぐに学生たちの要求を

そのまま実現できない面もある。これは別の角度で改善策を講じていきたい。

今回の調査は偶然にも商学部、体育学部だけになってしまい、文・法学部の意見は入っていない。しかし、学生たちの生の声を聞くことができたことは、大きな収穫であった。

学生の要望を全体的にみると、ロシア語はかなりむずかしいので、親切にゆっくりと、かつ楽しく学べるように教えて欲しいということになるかと思われる。今春、我々は「親しめるロシア語」という教科書を作ったが、授業のやり方についても「親しめるロシア語」にしていかなければならないことを痛感した。批判、要望とは別に、潜在的に学生のもっている意見、意識も調査した訳であるが、これも大いに参考にしていきたい。

我々の側で解決される問題は早急に改善していくとのことは既に述べたが、学生諸君にも大いに奮気してもらいたいとの気持ちで一杯である。教師、あるいは大学にのみ責任を嫁するのではなく、自分自身も学生としての自覚を明確にしてもらいたい。学生は「学ぶ」姿勢をもち、教師は「真剣に教える」姿勢をもち、真正面からぶつかり合う時に初めて、好ましい結果がもたらされるであろう。

最後に、読者の御意見、御批判を期待したい。なぜなら、個々別々に調査をしたため調査法としては必ずしも十分ではなかったからである。とは言え、全国的にみてもロシア語を学習している学生が非常に多い（約1500名）本学であるので、ロシア語教授法、あるいは一般的な語学教授法を向上させる上での議論の基礎的な資料として提出したのである。かさねて、御意見、御批判を仰ぎたい。

1976. 7.

中京大学教養部ロシア語担当教員

稲垣 兼一

前川 漸

木村 崇

安村 仁志